

35万人体制への布石、列車削減基地廃止を許すな!

国鉄当局は、2月5日10時より千葉鉄道管理局において、55・10輸送改善と称するダイヤ「改正」の計画概要について事前協議協定に基づく説明を行ってきた。事前説明の中では、第一に本社計画としての全国的な旅客、貨物の削減、車両基地集約(廃止)などを骨子とした内容。第二に千葉局としての計画概要が、それぞれ分けて説明が行われた。席上、動力千葉は、この全国計画、千葉局計画のいずれもが、貨物列車の大巾削減などを中心としたもので、50・3・53・10時改交渉の中で常に闘いを背景に、指摘をしてきた事柄、確認を一方的に無視し、強行せんとする国鉄当局の姿勢そのものを追及した。そして、国鉄経営施策上の破産を、要員合理化等の攻撃をもって国鉄労働者に責任転嫁する当局責任そのものについて激しい糾弾を行った。最終的に、当局側の「今後指摘された内容については充分検討を行い、次回の事前説明の中で明らかにしていきたい」との回答を受け、組合側より、「要員合理化、労働強化を策す今次『ダイヤ改』計画については、認める訳にはゆかない」とこと、計画そのものの撤回を強く申入れ交渉を打ち切った。

全国で11万3千キロの列車削減!

中央における計画概要については、大きくは新幹線、在来線、貨物列車を含めて大巾に削減するもので、全国で11カ所の機関区、気動車、客貨車基地を廃止するという内容である。

中央計画概要

- 旅客関係
 - 1.新幹線関係 各区間でこども22本、ひかり3本の削減を行う。
 - 2.在来線 現行の各線区における急行列車を持急におきかえ急行列車を合計37本削減する。

●貨物関係

- 主要線区、高速直通列車、普通貨物について計67本の列車削減を行う。
- 車両基地集約計画
 - 機関区 深川、遠軽、函館、長万部(北海道)
 - 水上(新潟)
- 気動車区 遠軽、長万部(北海道)
- 客貨車区 長門(広島) 宇和島(四国) 網走(北海道) 長岡(新潟) 新見(関西) 人吉(九州)

〔列車設定キロ〕

- 新幹線 1万キロ減
- 在来線 2万3千キロ減
- 荷物列車 若干
- 貨物列車 8万キロ減

根拠の全くない貨物削減650キロ!

千葉局における55・10「ダイヤ改」の実施計画の概要は、①旅客は、快速線、総武本線、外房・内房、武蔵野線で若干の本数増、緩行線の一部減、②貨物列車は、輸送量が増加しているにもかかわらず、各線区とも1〜2本の列車削減を行い、設

定キロで旅客118・3キロ、貨物では650キロそれぞれ減とする内容である。

千葉局計画概要

●旅客関係

- 1.快速線 錦糸町〜津田沼 1往復増
- 2.緩行線 浅草橋〜津田沼 3往復減
- 3.総武本線 千葉〜四街道 1往復増
- 4.外房・内房線 千葉〜木更津 1往復減
- 5.武蔵野線 新松戸〜西船橋 2往復増

●貨物関係

- 1.新金線 2往復減
- 2.小名木川支線 2往復減
- 3.総武本線(佐倉〜新小岩) 1往復減
- 4.外・内房線 1往復減
- 5.京葉線(千葉タ〜新小岩操) 1往復減
- 6.鹿島線、成田線 1往復減

反合・運転保安闘争を基軸に、職場闘争の活性化をつくりだそう!

以上、記してきたように、今次55・10輸送「改善」はまさにダイヤ改悪そのものであり、国鉄55万人体制の第一段としての恐るべき大合理化計画であり、そこには列車削減の根拠など全くなく、国鉄経営の抜本的改変を狙った具体的な攻撃内容であり、断じて容認することはできない。われわれは、こうした国鉄当局の企業としての責任を一さい棄て去り、収支均衡をはかるためには、そこに動く労働者を犠牲にして強行するといふ施策そのものを糾弾するとともに、大胆な職場討議の展開と、今日実施している第2次反合・運転保安の闘いの活性化をかちとり、更なる強化をもって闘いに立ち立ちあがろう。

三里塚・ジェット闘争貫徹!「国鉄35万人体制」粉碎!

55.10ダイヤ改事前説明さる!